

目黒税務署長賞

税の使い道

多摩大学目黒中学校 三年

松井 琴葉

私は図書館が好きだ。静かで落ち着いた雰囲気は勉強が捗るし、さまざまな本やCDを無料で借りることができる。中学校に入ってから、いろいろな音楽に興味を持つようになり、CDを買いに行くことが増えたが、一枚買うとすぐに一ヶ月分のお小遣いが消し飛んで行ってしまう。だから私は、図書館のCDコーナーをとっても重宝している。最近借りたCDは、買うと二千五百円もするものだったが、図書館でなら無料で借りることができる。なんてありがたいのだろうか。

しかし、最近SNS上で「図書館は税金の無駄遣いだ」という意見を目にして驚いた。確かに、図書館の運営には私たちが納めた税金が使われている。だが、それは本当に「無駄」であるのだろうか。自分には直接関係のないことにお金が使われることを人は「無駄」と感じるのかもしれない。

けれども、私は思う。税金は特定の一人のためでなく、社会の格差を減らすために使われるべきだと。

たとえば、生活が苦しい家庭の子どもでも図書館に行けば、無料で知識や文化に触れることができる。一人一人が負担する金額

は少なくても、一人では集めることが現実的ではないような量の知識を手に入れることができる。本も新聞もCDもパソコンも、平等に使用することができる。図書館は「だれしもが平等に使うことのできる場所」であることに大きな意味があるのだ。

かく言う私も、幼い頃は、自分とあまり関係ないようなところに税金が使われるのをあまり良く思っていなかった。自分が普段通らない道の舗装工事を見て、「そんなところよりも、もっと私にとって身近な場所に税金を使つてほしい」と思ったことがある。しかし今は、それがだれかの生活にとって必要なことであつたと分かる。人の立場が違えば、必要な支援も変わる。だからこそ、税金は自分一人のためにあるのではなく、社会全体を支えるためのものなのだ。

図書館のように、だれでも利用できる公共の施設があることは、当たり前のようにいてとても重要なことである。税金は、そのような私たちにとっての「当たり前」を支えてくれる大切な存在だ。私は、これからも図書館を利用していくにあたって、税金の使い道について、よく考えていきたいと思う。